

(2-2) 次世代の学校づくり（「生野の教育」の実現）①

◆取組の進捗状況

●学び支援事業

児童の学力状況の把握および自主学習習慣の確立や健康・体力の保持増進を目的に、**模擬検定等の受検を学校が活用できる機会を提供**する。

・模擬検定等の外部試験

15小学校にて実施予定（年度末見込み）

※実施済み1校（9月末時点）



(2-2) 次世代の学校づくり (「生野の教育」の実現) ①

【業績目標】

事業実施後のアンケートにおいて、学習意欲を問う設問について肯定的な回答をする児童の割合を70%以上とする。

◆課題

模擬検定等の活用が、児童の学習意欲の向上につながるよう、取組にあたり実施校との連携を進めていく必要がある。

【今後の方向性】

実施校における効果的な活用事例を共有し、より学習意欲が高まる取組となることをめざす。



(2-2) 次世代の学校づくり (「生野の教育」の実現) ②

◆取組の進捗状況

●民間事業者等を活用した課外授業「いくの塾」

生野区に在住し、大阪市立中学校に在籍する生徒（学年は問わないとする）を対象に、**学習習慣の定着、基礎学力の向上を目標**とする。

- ・生野中学校 毎週火・金曜日（9名/定員15名）受講率
 - ・巽中学校 毎週水・金曜日（10名/定員10名）85.7%
 - ・生野区民センター 毎週月・木曜日（11名/定員10名）9月末現在
- ※塾代助成カード利用者23名（利用率76.6%）

（教科）英語・数学

（時間）①18:30～19:20 ②19:30～20:20

※時間帯の①と②どちらも受講



(2-2) 次世代の学校づくり (「生野の教育」の実現) ②

【業績目標】

受講者に対し、事業実施前と後にアンケートを行い、
「学校の授業以外で勉強する日は1週間に何日ありますか」という
設問について、「全くしない」と答える生徒の割合を半減させる。

◆課題など

- ・学習習慣の定着等をより効果的に行う必要がある。
また、自尊感情の醸成も必要である。
- ・新型コロナウイルス感染症の拡大防止等、
より安全・安心にできる課外授業にする必要がある。



【今後の方向性】

- ・「みらい塾」や「生きるチカラまなびサポート事業」等の他の事業や
学校と連携する等、学習習慣の定着等がより進むような事業をめざす。
- ・生徒がより安全・安心して参加できるような課外授業にしていく。

(2-2) 次世代の学校づくり (「生野の教育」の実現) ③

※くらしの安全・安心部会関連：(4-2)貧困の連鎖を断ち切るための支援と同取組

◆取組の進捗状況

●生きるチカラを育む課外授業「みらい塾」 ※こどもの貧困対策関連の取組

当該中学校に在籍する生徒（学年は問わないとする）を対象に、民間事業者等を活用した大学生等による悩み相談と課外授業を行うことで、**学習習慣の定着と基礎学力の向上とともに自己肯定感の醸成**をはかり、「**自ら学ぶ力**」の定着をめざす。

- ・大池中学校 毎週月・木曜日（7名/定員1コマ15名）受講率
- ・東生野中学校 毎週火・金曜日（10名/定員1コマ15名）49.0%
- ・田島中学校 毎週火・金曜日（15名/定員1コマ10名）9月末現在
- ・新生野中学校 毎週火・木曜日（17名/定員1コマ10名）

※塾代助成カード利用者38名（利用率77.5%）

（教科）英語・数学・国語

（時間）①18:30～19:40 ②19:45～20:55

※時間帯の①と②はどちらかを選択



(2-2) 次世代の学校づくり (「生野の教育」の実現) ③

【業績目標】

参加者に対し、事業実施前と後にアンケートを行い、「学校の宿題以外にどれくらい勉強していますか」という設問について、「勉強をしない」「全くしない」と答える生徒の割合を半減させる。

◆課題など

- ・ 学習習慣の定着等や自尊感情の醸成をより効果的に行う必要がある。
- ・ 新型コロナウイルス感染症の拡大防止等、より安全・安心にできる課外授業にする必要がある。
- ・ 受講者が定員の約半数である。



【今後の方向性】

- ・ 「いくの塾」や「生きるチカラまなびサポート事業」等の他の事業や学校と連携する等、学習習慣の定着等や自尊感情の醸成がより進み、対象の生徒が参加したくなる事業をめざす。
- ・ 生徒がより安全・安心して参加できるような課外授業にしていく。

(2-2) 次世代の学校づくり (「生野の教育」の実現) ④

※くらしの安全・安心部会関連：(4-2)貧困の連鎖を断ち切るための支援と同取組

◆取組の進捗状況

●生きるチカラまなびサポート事業 ※こどもの貧困対策関連の取組

「キャリア教育」や「性・生教育」を支援する
「生きるチカラまなびサポーター」を学校の要請
に応じて派遣する。



- ・派遣回数 16回 (9月末時点)
- ・今後の派遣予定 40回 (年度末見込)
- ・登録講師 36名 (9月末時点)

※新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、
1学期の講師派遣に延期が発生しました。

(2-2) 次世代の学校づくり (「生野の教育」の実現) ④

【業績目標】

事業実施後のアンケートで、「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」という設問について、「どちらかといえば、当てはまらない」「当てはまらない」といった否定的な回答をした受講者の割合を小学校、中学校とも、6.0%未満にする。

◆課題など

- ・自らの力で未来を切り開いていくための自尊感情の醸成や底上げが必要。
- ・学校への講師派遣や講座数をより充実させる必要がある。

【今後の方向性】

子どもたちの自尊感情の醸成に向け、より活用件数を増やしていくため、より幅広い職種、業種の講師登録をはかりながら、より使いやすいカリキュラムづくりに取り組んでいきます。

(2-3) まちの教育力を上げる

◆取組の進捗状況

区内全校下に生涯学習ルームを開設し、区民の生涯学習活動の場を提供している。今年度は、コロナ禍により区生涯学習ルームフェスティバル等のイベントが中止となり、学びの成果の場として区民ギャラリー等において、作品展示を実施している。

- 区民ギャラリー等における作品展示（随時）
- 生涯学習ルームの開設 18校下
- 生涯学習推進員連絡会の開催 3回
(9月末時点)



区役所（区民ギャラリー作品展示）

(2-3) まちの教育力を上げる

【業績目標】

- ・生涯学習ルームの参加者アンケートで「区の生涯学習事業で学んだ内容を、地域行事等で活かすことができましたか」という問いに対し、「できた」と答えた割合：60%以上

◆課題など

- ・生涯学習事業への参加者が減少傾向にある。また、幅広い年代の方の参加促進のための周知啓発が必要。

【今後の方向性】

区広報紙等により生涯学習事業を周知する。

引き続き区民の生涯学習活動を支援し、生涯学習推進員と連携して、学びの成果を地域行事等で還元できるように支援し、地域における多世代交流を促進する。

新型コロナウイルス感染症対策により中止となった区生涯学習フェスティバルの補完事業として、区役所、区民センター、図書館において作品展示を行う。



『いろいろ豊かな魅力のあるまち』への課題

～「令和3年度 生野区運営方針」より～

- 区の人口減少に歯止めをかけ、持続可能なまちとなるためには、主に**若年・子育て層の移住・定住を促進**させることが必要。
- 区の重要な地域資源のひとつである**製造業事業所数の減少を防ぐ**ためには、次世代の育成や住工混在問題の解決のため、**ものづくり企業の重要性を周知し、区民の理解を図る**ことが必要。
- 区の**空家を地域資源として、建物所有者による自主的な利活用**が進むよう、地域主体の取組への支援が必要。
- 区に存在する多様な地域資源を発掘し、魅力あるものに高めていくとともに、**区民のまちに対する愛着や誇りが高まる**ような取組や区の魅力・特色を区の内外に向けて効果的に情報発信し、**区に訪れ、住んでもらえるよう戦略的なプロモーション**が必要。

令和3年度
主な取組

まち未来

地域資源から魅力資源へ

ものづくりの伝統を守り、受け継がれるために
空き家の利活用による新たな魅力づくり
学校跡地を核としたまちの活性化 等

生野区シティプロモーション

「生野の魅力」の発掘・浸透
区民のわがまち意識を育てる

地域社会における住民自治の拡充

まちづくり協議会による自律的な地域運営の促進

(1-1) ものづくりの伝統を守り、受け継がれるために

◆取組の進捗状況

- ・ こども工作教室の開催 1回 (2月27日予定)
- ・ 工場見学会の開催 (調整中)
- ・ 「生野ものづくり百景」を活用したPR (パネル展示等)
- ・ 区ホームページ等での情報発信

※「ものづくり教室」(生野工業高校との共催)は中止

まち
未来



生野ものづくり百景展示 (みんなの文化祭の様子)



デジタルブック版の周知チラシ

(1-1) ものづくりの伝統を守り、受け継がれるために

【業績目標】

- ・次世代育成を目的としたイベントなどへの参加数：151人以上／年
- ・区役所ホームページのものづくりページのビュー数：3,401件以上／年

◆課題など

- ・少子高齢化、若者のものづくり離れにより、後継者が不足し、技術の継承が困難な状況
- ・地域活性化の観点からも、住民のものづくり企業への理解度を促進することが必要。

【今後の方向性】

次世代育成を目的としたイベントやワークショップを通じて、ものづくりの楽しさを知ってもらいきっかけづくりを行う。

また、「生野ものづくり百景」を活用して、区内外へ「ものづくりのまち生野」を発信していく。

(1-2) 空き家の利活用による新たな魅力づくり

◆取組の進捗状況（9月末時点）

- ・地域が主体となった空家対策会議（6回開催 随時情報共有）
- ・空き家物件情報の提供（随時）
- ・「空き家・空きスペース利活用セミナー」のオンライン開催（9月25日）
※事業連携協定事業者（株）スペースマーケット及びakippa(株)との共催事業

まち未来



(株)スペースマーケット及びakippa(株)と事業連携協定調印式
(令和3年3月)



空き家・空きスペース利活用セミナー

【業績目標】

空き家利活用に関する取り組みが進んでいると感じる区民の割合
：25%以上

(1-2) 空き家の利活用による新たな魅力づくり

◆課題など

空き家の増加は、コミュニティの衰退やまちの魅力の低下など、地域の課題となっている。

一方、長屋については住みたい方も多く人気があるが、不動産市場には出てこない。

◆参考データ（平成30年住宅・土地統計調査）

- | | |
|---------------------|-------------------------|
| ・空家率 19.8% (5位/24区) | ・その他の住宅※ 5,870 (1位/24区) |
| ・長屋率 11.6% (1位/24区) | ・長屋の木造比率 11.2% (1位/24区) |

※その他の住宅とは、二次的・賃貸用・売却用以外の空き家を指す。

【今後の方向性】

空き家の建て替えや、利活用を促進するため、地域が主体となった空き家対策会議「空き家カフェ」を運営する「生野区空き家活用プロジェクト」と共催し、トークセッションやセミナーを開催することで、建物所有者による自発的な空き家の利活用が進むよう取り組む。

(1-3) 学校跡地を核としたまちの活性化



まち未来

- 令和元年6月に策定した「生野区西部地域の学校跡地を核としたまちづくり構想」を基に、「みんなの学校」「まちぐるみ教育」というコンセプトのもと、避難所機能を備えつつ、将来のまちの活性化につながる持続可能な学校跡地運営の検討を進めている。

(1-3) 学校跡地を核としたまちの活性化

【今年度の取組状況】

▶活用事業者の公募実施

- ・御幸森小学校：株式会社RETOWN（共同提案者：NPO法人IKUNO・多文化ふらっと）を活用事業者に選定（3年10月）
- ・生野小学校：マーケットサウンディングの実施（3年3月～7月）
- ・生野南小学校：マーケットサウンディングの実施（3年7月～10月）
- ・林寺小学校：マーケットサウンディングの実施（3年7月～11月）

▶活用に向けた商品化

- ・御幸森小学校：改修工事の実施
- ・生野小学校：実施設計の実施
- ・生野南小学校：現況調査の実施
- ・林寺小学校：現況調査の実施



(株)RETOWN、(特非)IKUNO・多文化ふらっとの提案